

第29回 全日本服従訓練競技大会

競技会会長 塩谷 立 実行委員長 勝又幸範
主催 公益社団法人日本警察犬協会 担当 愛知支部

- 日 時 2026年3月8日(日) 午前8時受付
公開訓練試験は行いません。
- 会 場 愛知県岡崎市・岡崎中央総合公園多目的広場
- 出 場 料 10,000円 出場犬1頭につきお弁当が1個つきます。追加のお弁当が必要な場合は、3月6日までに、愛知支部事務局 TEL 090-5877-7432 内山和子方まで御連絡ください。
各科目チャンピオンにガウン、チャンピオングループにストールを贈呈いたします。
※ 申込後の欠席犬の出場料は返金いたしません。
- 申 込 締 切 2026年2月13日(金) 必着(FAX・メール可 ただし着信確認の御連絡をお願いします。)
※ 申込書は本号巻末にあります。
- 出場・申込先 〒110-0015 東京都台東区東上野4-13-7 公益社団法人日本警察犬協会
TEL 03-5828-2521 FAX 03-5828-3768 Mail info@policedog.or.jp
- 出 場 犬 資 格 本協会会員の所有する、当協会の登録犬にして、狂犬病予防注射済の犬であること。
プロ1部・アマ1部(PAH3、PBH3、PSH3のいずれかを取得していること。)
プロ2部・アマ2部(PAH1、PBH1、PSH1、PGH1以上のいずれかを取得していること。)
上記以外の部は、訓練資格の必要なし。
個体識別(マイクロチップ番号又は耳番号)が犬籍に登録されていること。
警察犬種外(当協会の登録犬でない犬)は、所有者が会員であり、マイクロチップによる個体識別ができること及び狂犬病予防注射済の犬であること。
※ シェパード犬で内産の単独犬登録犬も出場できるようになりました。
※ 申込時には、開催期間中に有効な狂犬病予防注射済証明書又は注射済票のコピーを必ず添付してください。添付されない場合は、出場できません。接種日が申込締切後の方は、大会開催日の7日前(必着)までにメール又はFAXにてお送りください。大会当日は、受け付けできません。期日までに提出できない場合は必ず事務局へ御相談ください。
※ 狂犬病予防注射済証明書での出場は、認められません。

- 指 導 手 資 格 「プロ1部」、「アマ1部」
当協会の会員及びその家族(アマチュア)、公認訓練士又はその助手
「プロ2部」、「プロ3部(G2科目休止なし)」、「プロ4部(G2S科目)」、
「プロ5部(G1科目休止なし)」、「プロ6部(G1S科目)」
「プロ4部」、「プロ5部」、「プロ6部」については、警察犬種外も実施します。
当協会の公認訓練士又はその助手
「アマ2部」、「アマ3部(G2科目休止なし)」、「アマ4部(G2S科目)」、
「アマ5部(G1科目休止なし)」、「アマ6部(G1S科目)」
「アマ4部」、「アマ5部」、「アマ6部」については、警察犬種外も実施します。
当協会の会員及びその家族(他人の犬は指導できません。)
※ 同一犬・同一指導手で複数の科目に出場できます。
※ 指導手を変えれば、同一犬が同じ科目に出場できます。
ただし、「プロ1部」は、指導手を変えても同一犬の出場はできません。

音響について

1部の音響は行いません。

競技前に行うマイクロチップの読み取りについて

競技前に行うマイクロチップの読み取りが困難だった場合は、競技終了後に再度読み取りを行います。審査員の指示に従ってください。読み取り後、登録内容に相違があった場合は、審査を受けることができませんので必ず事前に確認をしてください。

- ◎ 会場及び会場周辺での喫煙はできません。
- ◎ 当競技会の審査手簿は、1年間保管いたします。
- ◎ 競技会に御参加をされる方のビデオ撮影等につきましては問題ございませんが、他の参加者に対する肖像権のお取扱いは御注意ください。
- ◎ 競技会規定に従い厳正公平に審査をいたします。判定に対しては、何人も異議を申し立てることはできない。ただし、根拠のある意義に対しては、審議を行うものとする。正当な理由のない申し立てについては、賞罰委員会の審議の対象となる場合があります。
- ◎ 会場において、会報とホームページ等に掲載をする写真及び動画を撮影しております。写真は、会場内外の様子が公開されることがありますので、あらかじめ御了承ください。

2026年 第29回

全日本服従訓練競技大会 規定

プロ1部・アマ1部

チャンピオングループ：得点95.0点以上、リザーブチャンピオン：得点94.9.4～90.0点

科目、配点[100点満点]

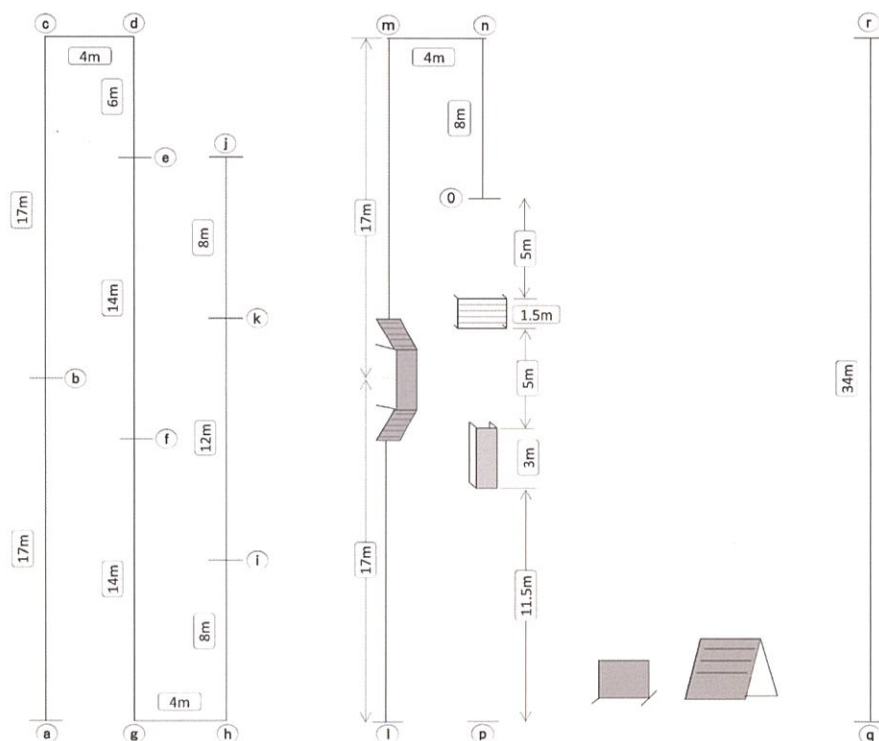
科目1	休止(5分)	(10点)
科目2	紐無脚側行進①	(6点)
科目3	紐無脚側行進②	(6点)
科目4	常歩行進中の停座及び招呼	(6点)
科目5	速歩行進中の立止から遠隔指導による停座、伏臥、立止及び招呼	(14点)
科目6	高所立止及び招呼	(12点)
科目7	幅跳び飛越及びトンネル内ほふく前進	(12点)
科目8	高さ1mの障害飛越を伴う650gのダンベル持来	(10点)
科目9	高さ1.8mの板壁登攀を伴う650gのダンベル持来 (科目8、9は大会本部で用意したダンベルを使用する。)	(10点)
科目10	前進及び伏臥	(14点)

作業開始前に指定の場所で脚側停座させ紐を外し(紐は指導手の肩に掛ける)、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。審査員が科目別に複数の場合、それぞれの審査員に申告する。

科目1 休止(5分)

声符 「フセ」、「マテ」、「スワレ」

所定の地点で脚側停座させ、審査員の指示により犬に休止を命じ、審査員の指示により犬に待てを命じ指導手は常歩で振り返ることなく指定された物陰へ隠れる。休止中、審査員が犬の周囲を歩く誘惑を行う。5分後、審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬の元へ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により犬に紐を付け終了する。



科目2 紐無脚側行進①

声符 「アトへ」、「アトへ」

③点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、⑤点から速歩で⑥点で右折、④点で右に向きを変えた地点で停止し、指示無し脚側停座させる。

科目3 紐無脚側行進②

声符 「アトへ」、「アトへ」、「アトへ」

④点から審査員の指示により緩歩で進み、⑥点から速歩で①点で指示無し脚側停座させる。審査員の指示により速歩で進み、⑧点で左折、⑥点で左に向きを変えた地点で停止し、指示無し脚側停座させる。

科目4 常歩行進中の停座及び招呼

声符 「アトへ」、「スワレ」、「コイ」、「アトへ」

①点から審査員の指示により常歩脚側行進で進み、①点で指導手は歩度を変えることなく犬に停座を命じ、振り返ることなく①点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬が対面停座をしたら、審査員の指示により脚側停座させる。

科目5 速歩行進中の立止から遠隔指導による停座、伏臥、立止及び招呼

声符 「アトへ」、「タッテ」、「スワレ+視符」、「フセ+視符」、「タッテ+視符」、「コイ」、「アトへ」

遠隔指導のみ声符と同時に視符を使用することができる。

①点から審査員の指示により速歩脚側行進で進み、④点で指導手は歩度を変えることなく犬に立止を命じ、振り返ることなく④点まで進み犬と対面する。審査員の指示により遠隔指導で停座、審査員の指示により伏臥、審査員の指示により立止を命じ、審査員の指示により犬を招呼する。犬が対面停座をしたら、審査員の指示により脚側停座させる。

科目6 高所立止及び招呼

声符 「アトへ」、「ノボレ」、「タッテ」、「コイ」、「アトへ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進でブリッジの直前まで進み、声符により犬のみを渡らせ、犬はブリッジ上、指導手は常歩でブリッジの右側を共に進み、ブリッジの中央で歩度を変えることなく犬に立止を命じたら、指導手は速歩で振り返ることなく④点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬が対面停座をしたら、審査員の指示により脚側停座させる。

科目7 幅跳び飛越及びトンネル内ほふく前進

声符 「アトへ」、「トベ」、「クグレ」、「タッテ」、「アトへ」

④点から審査員の指示により左に向きを変え、速歩脚側行進で進み、④点で右折し、⑥点で指示無し脚側停座させる。審査員の指示により指導手はその場から動かずに犬に幅跳びを飛越させ、続けてトンネルをくぐらせる。犬がトンネルを出たら審査員の指示なく立止させ、審査員の指示により指導手は速歩で幅跳び、トンネルの右側を通り、立止している犬の右側に行き、審査員の指示なく速歩脚側行進で⑥点で進行方向を向いて指示無し脚側停座させる。

科目8 高さ1mの障害飛越を伴う650gのダンベル持来

声符 「トベ」、「モッテコイ」、「アトへ」

科目開始前に犬にダンベルを咥えさせてはいけない。障害から任意の位置に指導手がダンベルを持って脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示により犬にダンベルを障害の反対側へ投げる。ダンベルを投げる時指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。審査員の指示により犬に障害を飛越させ、犬が飛越中に持来を命じ、犬はダンベルを咥え上げ再び障害を飛越し、対面停座する。審査員の指示により犬からダンベルを両手で受け取り胸のところで保持をする。審査員の指示により脚側停座させたらダンベルを右手で持ち「気を付け」の姿勢をとる。

科目9 高さ1.8mの板壁登攀を伴う650gのダンベル持来

声符 「トベ」、「モッテコイ」、「アトへ」

科目開始前に犬にダンベルを咥えさせてはいけない。板壁から任意の位置に指導手がダンベルを持って脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示によりダンベルを板壁の反対側へ投げる。ダンベルを投げる時指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。審査員の指示により犬に板壁を登攀させ、犬が登攀中に持来を命じ、犬はダンベルを咥え上げ再び板壁を登攀し、対面停座する。審査員の指示により犬からダンベルを両手で受け取り胸のところで保持をする。審査員の指示により脚側停座させたらダンベルを右手で持ち「気を付け」の姿勢をとる。

科目10 前進及び伏臥

声符 「マエへ+視符」、「フセ+視符」、「スワレ」

出発点で脚側停座させ、審査員の指示により前進を命じる。視符は犬が前進している間には出したままでよい。犬が前方のマークされた①点まで前進をしたら審査員の指示なく伏臥をさせる。指導手が伏臥の指示をした直後に、伏臥の成功、不成功に関係なく1回のピストルの発砲を行う。審査員の指示により指導手は速歩で犬の左側から後方を回り犬の元へ行き、審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により審査員の元へ行き、犬に紐を付け終了する。前進はコース図に示す方向でない場合がある。

プロ2部・アマ2部

チャンピオングループ：得点57.0点以上、リザーブチャンピオン：得点56.9～54.0点

科目、配点[60点満点]

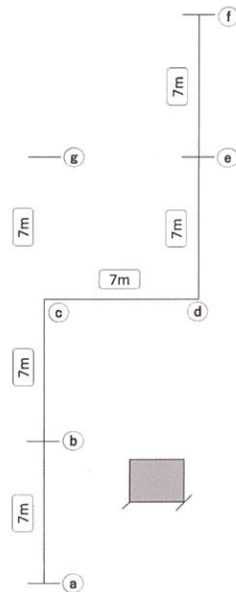
科目1	紐無脚側行進	(10点)
科目2	常歩行進中の停座及び招呼	(10点)
科目3	常歩行進中の伏臥及び招呼	(10点)
科目4	常歩行進中の立止及び遠隔停座	(10点)
科目5	ダンベル持来(指導手所有の100g以上)	(10点)
科目6	片道障害飛越(高さ:体高の1.2倍・最高70cm)	(10点)

☆コース図の服従作業距離は、会場その他の理由で変更することがある。
☆作業開始前に指定の場所で脚側停座させ(紐付きでもよい)審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。

科目1 紐無脚側行進

声視符 「アトへ」×9(出発、コーナー×4、回転×2、反転、終点)、
「スワレ」

①点で紐無し(紐は指導手の肩に掛ける)で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、②点で左回転し(指導手は直径50cm以下で回転する)、引き続き常歩で③点で右折した地点から緩歩で④点に進み左折した地点から常歩で⑤点で右回転し(指導手は直径50cm以下で回転する)、引き続き常歩で⑥点まで進み反転し、止まることなく速歩で④点で右折、③点で左折し、②点に戻り反転した地点で脚側停座させる。



科目2 常歩行進中の停座及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「スワレ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」
対面停座の場合 「アトへ」、「スワレ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、②点で指導手は歩度を変えることなく犬に停座を命じ、振り返らず③点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

科目3 常歩行進中の伏臥及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「フセ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」
対面停座の場合 「アトへ」、「フセ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

③点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、④で指導手は歩度を変えることなく犬に伏臥を命じ、振り返らず⑤点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

科目4 常歩行進中の立止及び遠隔停座

声視符 「アトへ」、「タツテ」、「スワレ」、「アトへ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、②点で指導手は歩度を変えることなく犬に立止を命じ、振り返らず③点まで進み犬と対面する。審査員の指示により指導手は遠隔指導で犬を停座させ、審査員の指示により常歩で犬の左側から後方を回り犬の元へ戻り、審査員の指示によりその場で反転し速歩脚側行進で④点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目5 ダンベル持来(指導手所有の100g以上)

声視符 直接脚側停座の場合「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」、「ダセ」

対面停座の場合 「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「スワレ」、「ダセ」、「アトへ」、「スワレ」

指導手はダンベルを持ち①点で脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示により犬に待てを命じ、ダンベルを7m以上投げる。ダンベルを投げるとき指導手は

1 歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。審査員の指示により持来させる。犬がダンベルを咥えたら犬を招呼し、直接脚側停座するか、対面停座をさせ審査員の指示によりダンベルを受け取る。対面停座をした場合は審査員の指示により脚側停座させる。

科目 6 片道障害飛越（高さ 体高の約 1.2 倍・最高 70 cm までとする。）

声視符 「トベ」、「マテ」、「スワレ」

障害から任意の位置で脚側停座させ、審査員の指示により指導手は位置を変えずに犬に飛越を命じ、飛越をしたら審査員の指示無く立止を命じる。審査員の指示により指導手は常歩で犬の右側へ行き、審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により犬に紐を付け終了する。

プロ 3 部・アマ 3 部 (G2 科目休止なし)

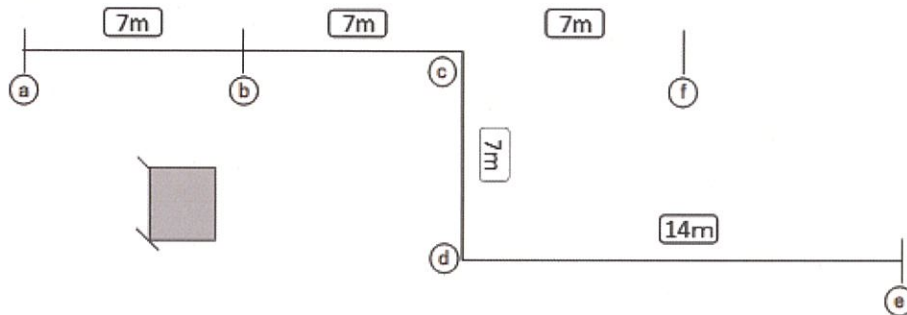
チャンピオングループ：得点 66.5 点以上、リザーブチャンピオン：得点 66.4～63.0 点

科目、配点 [70 点満点]

科目 1	紐付脚側行進	(10 点)
科目 2	紐無脚側行進	(10 点)
科目 3	常歩行進中一旦停止の停座及び招呼	(10 点)
科目 4	常歩行進中一旦停止の伏臥及び招呼	(10 点)
科目 5	常歩行進中一旦停止の立止	(10 点)
科目 6	ダンベル持来（指導手所有の 100 g 以上）	(10 点)
科目 7	片道障害飛越（高さ：体高の約 1.2 倍 最高 70 cm）	(10 点)

実施要領

コース図



作業開始前に指定の場所で紐付きで脚側停座させ、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。

科目 1 紐付脚側行進

声視符 「アトへ」（出発、コーナー×4、反転、終点）、「スワレ」

①点で紐付き（紐は左右どちらかの片手で保持する。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、③点で右折、④点で左折、⑤点で反転し、止まることなく速歩で⑥点で右折、③点で左折し、①点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目 2 紐なし脚側行進

声視符 「アトへ」（出発、コーナー×4、反転、終点）、「スワレ」

①点で紐を外し（紐は指導手の肩に掛ける。）、脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、③点で右折、④点で左折、⑤点で反転し、止まることなく速歩で⑥点で右折、③点で左折し、①点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目 3 常歩行進中一旦停止の停座及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「スワレ」、「マテ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「スワレ」、「マテ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、⑥点で指導手は一旦停止と同時に犬に停座、続けて待てを命じ（一旦停止せず停座を命じてよい。）、常歩で振り返ることなく①まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

科目4 常歩行進中一旦停止の伏臥及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「フセ」、「マテ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「フセ」、「マテ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

④点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、⑤点で指導手は一旦停止と同時に犬に伏臥、続けて待てを命じ（一旦停止せず伏臥を命じてもよい。）、常歩で振り返ることなく④点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

科目5 常歩行進中一旦停止の立止

声視符 「アトへ」、「タッテ」、「マテ」、「スワレ」

④点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、⑤点で指導手は一旦停止と同時に犬に立止、続けて待てを命じ（一旦停止せず立止を命じてもよい。）、常歩で振り返ることなく④点まで進み犬と対面する。審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により④点に戻る。

科目6 ダンベル持来（指導手所有の100g以上）

声視符 直接脚側停座の場合「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」、「ダセ」

対面停座の場合 「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「スワレ」、「ダセ」、「アトへ」、「スワレ」

指導手はダンベルを持ち④点で脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示により犬に待てを命じ、ダンベルを7m以上投げる。ダンベルを投げるとき指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。審査員の指示により持来させる。犬がダンベルを咥えたら犬を招呼し、直接脚側停座するか、対面停座をさせ審査員の指示によりダンベルを受け取る。対面停座をした場合は、審査員の指示により脚側停座させる。

科目7 片道障害飛越（高さ：体高の約1.2倍 最高70cm）

声視符 「トベ」、「マテ」、「スワレ」

障害から任意の位置で脚側停座させ、審査員の指示により指導手は位置を変えずに犬に飛越を命じ、飛越をしたら審査員の指示なく立止を命じる。審査員の指示により指導手は常歩で犬の右側へ行き、審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により犬に紐を付け終了する。

プロ4部・アマ4部 (G2S科目)

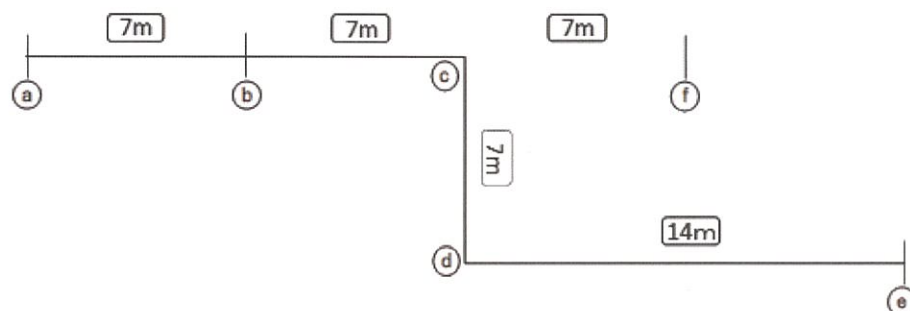
チチャンピオングループ：得点47.5点以上、リザーブチャンピオン：得点47.4～45.0点

科目、配点【50点満点】

科目1	紐付脚側行進	(10点)
科目2	紐無脚側行進	(10点)
科目3	常歩行進中一旦停止の停座及び招呼	(10点)
科目4	常歩行進中一旦停止の伏臥及び招呼	(10点)
科目5	常歩行進中一旦停止の立止	(10点)

実施要領

コース図



作業開始前に指定の場所で紐付きで脚側停座させ、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。

科目1 紐付脚側行進

声視符 「アトへ」（出発、コーナー×4、反転、終点）、「スワレ」

㊸点で紐付き（紐は左右どちらかの片手で保持する。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、㊹点で右折、㊺点で左折、㊻点で反転し、止まることなく速歩で㊼点で右折、㊽点で左折し、㊾点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目2 紐なし脚側行進

声視符 「アトへ」（出発、コーナー×4、反転、終点）、「スワレ」

㊸点で紐を外し（紐は指導手の肩に掛ける。）、脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、㊹点で右折、㊺点で左折、㊻点で反転し、止まることなく速歩で㊼点で右折、㊽点で左折し、㊾点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目3 常歩行進中一旦停止の停座及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「スワレ」、「マテ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「スワレ」、「マテ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

㊸点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、㊹点で指導手は一旦停止と同時に犬に停座、続けて待てを命じ（一旦停止せず停座を命じてもよい。）、常歩で振り返ることなく㊺まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

科目4 常歩行進中一旦停止の伏臥及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「フセ」、「マテ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「フセ」、「マテ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

㊸点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、㊹点で指導手は一旦停止と同時に犬に伏臥、続けて待てを命じ（一旦停止せず伏臥を命じてもよい。）、常歩で振り返ることなく㊺点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

科目5 常歩行進中一旦停止の立止

声視符 「アトへ」、「タッテ」、「マテ」、「スワレ」

㊸点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、㊹点で指導手は一旦停止と同時に犬に立止、続けて待てを命じ（一旦停止せず立止を命じてもよい。）、常歩で振り返ることなく㊺まで進み犬と対面する。審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により犬に紐を付け終了する。

プロ5部、アマ5部

(G1科目休止なし)

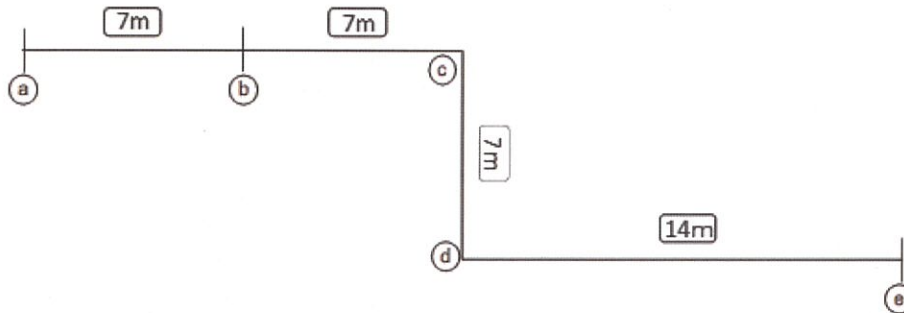
チャンピオングループ：得点38.0点以上、リザーブチャンピオン：得点37.9～36.0点

科目、配点〔40点満点〕

科目1	紐付脚側行進	(10点)
科目2	紐付立止	(10点)
科目3	紐無脚側行進	(10点)
科目4	停座及び招呼	(10点)

実施要領

コース図



作業開始前に指定の場所で紐付きで脚側停座させ、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。

科目1 紐付脚側行進

声視符 「アトへ」（出発、コーナー×4、折り返し、終点）、「スワレ」

①点で紐付き（紐は左右どちらかの片手で保持する。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、③点で右折、④点で左折、⑤点で反転し、止まることなく速歩で⑥点で右折、③点で左折し、①点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目2 紐付き立止

声視符 「タッテ」、「マテ」、「スワレ」

①点で紐付き（紐は左右どちらかの片手で保持する。）で脚側停座させ、審査員の指示により犬に立止を命じ、審査員の指示により待てを命じ、紐の末端を持ち、張らない位置で犬と対面する。審査員の指示により犬の周囲を反時計回りで1周し、元の位置で対面する。審査員の指示により犬の周囲を時計回りで1周し、元の位置で対面する。審査員の指示により犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。

科目3 紐無脚側行進

声視符 「アトへ」（出発、コーナー×4、反転、終点）、「スワレ」

①点で紐を外し（紐は指導手の肩に掛ける。）、脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、③点で右折、④点で左折、⑤点で反転し、止まることなく速歩で⑥点で右折、③点で左折し、①点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目4 停座及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「マテ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「マテ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

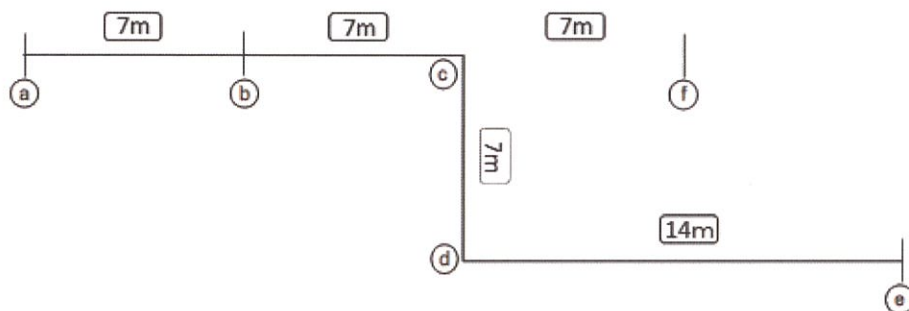
①点で脚側停座させ、審査員の指示により犬を停座で待たせ、指導手は常歩で振り返ることなく⑥点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により犬に紐を付け終了する。

プロ6部、アマ6部**(G1S科目)**

チャンピオングループ：得点38.0点以上、リザーブチャンピオン：得点37.9～36.0点

科目、配点〔40点満点〕

科目1	紐付脚側行進	(10点)
科目2	紐付常歩行進中一旦停止の停座	(10点)
科目3	紐付常歩行進中一旦停止の伏臥	(10点)
科目4	紐付常歩行進中一旦停止の立止	(10点)

実施要領**コース図**

作業開始前に指定の場所で紐付きで脚側停座させ、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。

科目1 紐付脚側行進

声視符 「アトへ」×7（出発、コーナー×4、反転、終点）、「スワレ」

①点で紐付き（紐は左右どちらかの片手で保持する。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、③点で右折、④点で左折、⑤点で反転し、止まることなく常歩にて④点で右折、③点で左折し、①点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

科目2 常歩行進中一旦停止の停座

声視符 「アトへ」、「スワレ」、「マテ」

①点で紐付き（紐は左右どちらかの片手で保持する。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、③点で指導手は一旦停止と同時に犬に停座、続けて待てを命じ（一旦停止せず停座を命じてよい。）、指導手は、紐の末端を持ち、張らない位置で（紐を持たない場合は、約1.5mの位置）犬と対面する（紐を持つか持たないかは、科目ごとに変更してもよい。）。審査員の指示により犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻る（紐を持たない場合は、審査員の指示により紐を持つ。）。

科目3 常歩行進中一旦停止の伏臥

声視符 「アトへ」、「フセ」、「マテ」、「スワレ」

①点で紐付き（紐は左右どちらかの片手で保持する。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、③点で指導手は一旦停止と同時に犬に伏臥、続けて待てを命じ（一旦停止せず伏臥を命じてよい。）、指導手は、紐の末端を持ち、張らない位置で（紐を持たない場合は、約1.5mの位置）犬と対面する（紐を持つか持たないかは、科目ごとに変更してもよい。）。審査員の指示により犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻る、審査員の指示により脚側停座させる（紐を持たない場合は、審査員の指示により紐を持つ。）。

科目4 常歩行進中一旦停止の立止

声視符 「アトへ」、「タッテ」、「マテ」、「スワレ」

①点で紐付き（紐は左右どちらかの片手で保持する。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、③点で指導手は一旦停止と同時に犬に立止、続けて待てを命じ（一旦停止せず立止を命じてよい。）、指導手は、紐の末端を持ち、張らない位置で（紐を持たない場合は、約1.5mの位置）犬と対面する（紐を持つか持たないかは、科目ごとに変更してもよい。）。審査員の指示により犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻る、審査員の指示により脚側停座させ、終了する（紐を持たない場合は、審査員の指示により紐を持ち終了する。）。